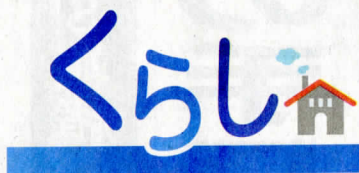


ペット用品に「猫目線」

盛岡の企業

飼い主ではなく、猫にとつての使いやすいにこだわってペット用品の開発を続ける企業が盛岡市にある。素材や加工に手間がかかるため一つ数万円と高価だが、安全性も兼ね備えたデザインがインターネットで評判に。代表取締役の太野由佳子さん(40)は「岩手で作ったグッズで、世界中の猫を幸せにしたい」と話す。2005年に創業したクロス・クローバー・ジャパンは、人間5人と猫2匹の小さな会社。ペット用品は主に飼い主が選ぶため、かわいらしさが優先されがちだが「猫目線」

安全性追求し商品開発



匹の小さな会社。ペット用品は主に飼い主が選ぶため、かわいらしさが優先されがちだが「猫目線」を意図し、昨年11月には猫と人の両方に優しい物づくりを目指す新ブランド「CATUX ZEN (キャタックス ゼン)」も立ち上げた。太野さんは動物愛護団体のボランティア経験などから、一生猫に関わる仕事をしたいと20代で見つめる生活が続く。

創業した。「私は猫の通訳。しぐさや様子から言葉にならない訴えを聞くことが大切です」。全ての猫を幸せにする日目で、自宅で2匹をじっと見つめる生活が続く。



わけて寝えられ、ベッドはデニムの手編みで通気性が良い。全ての商品は太野さんが拾った猫社員「ぼんちゃん」と「ちゃつくん」が使い心地をチェック。これまでに約5万人が商品を購入した。余計なものをそぎ落とされたデザイン性への評価も高く、3度グッズデザイン賞を受賞している。「猫にとつての一生もの」



た。節分に豆をまくのは、1節分に

張り替え不要の壁紙

新築やリフォームの際に出る膨大な建設資材の廃棄物。ごみを減らし、再利用することが求められる折、剥がさず上から塗り替えができる壁紙、新聞紙から作る断熱材など、石油系の原料を使わず廃棄物をできるだけ出さない、エコな建材が注目されている。

新聞紙から断熱材



原料の80%に新聞紙を利用したセルロースファイバーの断熱材。これを外壁と内壁の間に吹き込む。埼玉県飯能市のデコス関東工場

市場の大半を占めるビニールクロスは一般的に表面がビニール、裏面が紙でできている。価格が手頃で扱いやすいが、張り替えるたびにごみが出る上、新たな壁紙を生産するために資源とエネルギーを要する。

建築資材販売のナガイ(長野県飯田市)は2016年、パルプなどを主な材料にし、ポリエステルを加えて強化した不織布に塗装を施した「エコフリース」を開発した。商品は、無塗装の壁紙とパールホワイト、

新築にエコな建材

公共施設での需要も

ローズピンクなど淡い色を中心に10色のフラットタイプ、白系2色の凹凸のあるエンボスタイプがある。エコフリースの特徴は、劣化しても剥がす必要がなく、自分で水性塗料を使って上塗りできる点。同社インテリア事業部営業担当の小澤傑さんは「摩擦や衝撃に強く、通気性が良く、結露やカビの発生を抑えやすく」と説明する。伐採、管理が行われている森林に由来する製品を示すFSC(森林管理協議会)認証も取得済みだ。

11年には建築用断熱材として初めてカーボンフットプリント(CFP)プログラムも取得した。CFPとは原材料の調達から廃棄、リサイクルまで全行程で排出される温室効果ガスの量を二酸化炭素に換算して表示する仕組みを指す。一般的な断熱材と比べ、ガラス素材のグラスウ

ーのメーカー、デコス(山口県下関市)は新聞紙80%にホウ酸、ホウ砂、はつ水剤を加えた断熱材「デコスファイバー」を生産。セルロースファイバーの中に空気の膜ができるため熱や音が伝わりにくくなり、高い断熱性能を持つ。難燃性で湿度調整する機能にも優れている。

暑さ、寒さを防ぐ断熱材の分野では、新聞紙をリサイクルして作るセルロースファイバー(木質繊維)がある。セルロースファイバ



塗料を繰り返し塗って使える壁紙「エコフリース」

東京都内

あすの運勢 二世易八大

1月19日(金曜日)

生まれ月による◎最良 ○良 △普通 ▽注意	五行易判断	愛情	金運	健康	方位	吉色	吉数
1月	元気を出す前に進む	○	△	▽	北東	茶	6
2月	何をやるにしてもうまくいかない	○	△	◎	東	緑	2
3月	力みは抜いて	△	▽	○	北	黒	9
4月	この日は引きはかない	○	△	△	西南	銀	7

歩いて健康管理

仕事 番心配 になら 々の野 つに今、習 キング

かり垢 れば年 ない。 歩は から登 できず が、健 を頑張